



知床科学委員会 しんぶん

エゾシカ・ヒグマ

ワーキンググループ NO. 15



知床半島ヒグマ管理計画の今年(5年計画の1年目)を振り返りました。

2017年のヒグマの出没状況は？

◇斜里町… 10月末までの目撃件数 **1266**件(2016年1年間で1035件)

◇羅臼町… 10月末までの目撃件数 **203**件(2016年1年間で174件)

◇標津町… 11/10までの対応件数 **112**件(過去最多は2013年の49件)

各町ともヒグマの活動が活発でした。特に10月以降、ドングリ・サケといったヒグマの秋の食べ物が少なかったこともあり、目撃が増えました。

計画の目的は達成されている？

【目的1】 住民の生活や産業を守る

斜里町内では **31年ぶり**となる人身事故が発生しました。

詳細は裏面！

【目的2】 利用者の安全と自然体験の場の確保

斜里側の国立公園では、ヒグマを見物する人による渋滞がたびたび発生しました。

【目的3】 ヒグマの生態および個体群の維持

10月末までに3町合計で**メス20頭**、オス24頭、計44頭のヒグマが捕殺されました。

食べ物を求めて行動範囲を広げたヒグマと人の遭遇が増え、捕殺数もトラブルも多い年でした。

管理計画では5年間のメスヒグマの捕殺数を75頭以下にすることを目標としていますので、今年のペースで捕殺が進まないよう、様々な対策が話し合われました。



国立公園内でのヒグマ渋滞
公園内では人のコントロールが急務

今後の取り組みは？

今年の状況を反映した来年度の取り組みを3月までに確定します。それに基づいて、関係機関が連携したモニタリング調査や利用者等への普及啓発を行っていきます。

例えば・・・

【情報公開を試行中！！】

2017年7月に、ヒグマ対策用のFacebookアカウントを開設し、これまでにヒグマの目撃情報や生態に関する記事約70件を掲載しました。

<https://www.facebook.com/BearSafetyShiretoko/>
(知床財団ヒグマ対策 Facebook)



～住民の皆さんへのお願い～

管理計画では、地域住民に求められる行動として、以下のことをお願いしています。

① ヒグマの存在を常に意識する。

② ヒグマを誘引しないよう食物・ゴミの管理を徹底する。

③ ヒグマの出没情報を役場等へ通報する。

■斜里町 0152-24-2775 (知床財団/日中のみ)

090-3778-4308 (知床財団/夜間・早朝)

■羅臼町 0153-87-2126 (羅臼町役場産業課)

■標津町 0153-82-2131 (標津町役場農林課林政係)

人もヒグマも暮らせる
知床半島のためにご協力
下さい！



10月9日に、斜里町内で31年ぶりとなるヒグマによる人身事故が発生しました。

会議では、事故後の様々な分析により見えてきた事故の原因や、今後の対策等について、報告されました。

【事故経緯】

🕒 13:00 頃

農家が農地周辺にてヒグマ1頭を目撃し、通報。

🕒 14:30 頃

猟友会員 3 名が到着。目撃地点付近を探索。小型のヒグマ1頭(68 kg)を発見、発砲し駆除。その後、農地付近の道路を横断する別のヒグマ1頭を目撃。1名がヒグマの予想進行方向に待機、2名が農地の足跡を追跡。

🕒 15:45 頃

防風林からヒグマ(体重 111 kg)が飛び出し、1名に突進。もう1名の発射した弾がヒグマに命中するが、ヒグマの突進は止まらず、1名の右顔面を殴打し、続けて左腿に咬みつく。もう1名が再度発砲し、ヒグマは絶命。負傷者は意識正常な状態で病院へ搬送された。



【本事故の発生原因に関する考察】

◆当時の状況について

・ 今秋の知床半島はドンダリ(ミズナラ)が不作でした。またカラフトマス・シロザケの遡上数も少なく、ヒグマにとって、冬眠前の重要な時期の食べ物が不足している状態だったと考えられます。

・ 10月上旬には、食べ物を探すために行動範囲を農地にまで広げたヒグマが多数いたと言えます。

・ 事故後の分析の結果、事故発生時には、現場近くの林の中に、2〜3頭のヒグマが潜んでいたことがわかりました。

◆DNA調査から

事故後のDNA分析の結果、捕殺された2頭の間には血縁関係が無いことが明らかになりました。また、2頭ともこれまでの学術調査等では確認されていない個体でした。

これら2頭は、それぞれ別の場所から食べ物を求めて移動してきて、事故当日偶然現

場に居合わせた可能性があります。

すなわち本事故は、事故発生直後の報道にあったような「子グマを先に捕殺された母グマが、怒ってハンターに逆襲した」というような単純な構図の事故ではなく、複数の要因が重なり追い詰められたヒグマが、逃走したい方向を塞いでいた負傷者を突発的に攻撃したことで発生した事故であつたと考えられます。

【今後に向けて】

今回の事故では、知床半島ヒグマ管理計画に定められた事故対策マニュアルに従い、斜里町が事故対策本部を設置し、関係機関と連携して事後対応にあたりました。

今後はこの事故からの教訓を生かし、再発を予防しつつ、有効なヒグマ対策に取り組んでいきます。会議で報告された事故報告書の全文は、知床財団ヒグマ対策 Facebook にも公開しています。



Q. エゾシカの管理はうまくいっているの？

A. 捕獲事業の効果でエゾシカの数減ってきており、2017年3月のヘリコプターからの調査では、5頭/km²(管理計画上の目標値)近くまで下がった場所も出てきました。一方、エゾシカが多かった時期にダメージを受けた植物は、エゾシカが減ってもまだすぐには回復していません。今後はシカが少ない状態を維持しつつ、植物の更なる回復を見守るという長期的な取り組みが必要です。

会議の内容をもっと知りたい方はコチラ
知床データセンター

<http://dc.shiretoko-whc.com/>

■問合せ先■

環境省釧路自然環境事務所

〒085-8639

北海道釧路市幸町 10-3 釧路地方合同庁舎 4 階

TEL 0154-32-7500 FAX 0154-32-7575

